

教科(科目)	国語(言語文化)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年（全クラス）
使用教科書	大修館書店『新編言語文化』				
副教材等	桐原書店『常用漢字ワイドアルファ』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

○グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

～卒業までにこのような資質・能力を育みます～

- ① 主体的に課題を見つける感覚を養い、自ら学び、解決策を創造する資質・能力と産業社会で求められる倫理観と規範意識を育成します。
- ② 生涯にわたって学び続ける意欲を養い、新たな産業に柔軟に対応する自己指導力を育成します。
- ③ 国際的視野に立って考える姿勢を養い、地域の発展と豊かな暮らしに貢献するために必要な思考力、発想力を育成します。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～

- ① 共通教科の学びを強化して、基礎学力の定着を図ります。
- ② 工業高校で学ぶ基本的な知識や技術を習得し、課題研究や新しいIT技術について、主体的な学び方と実践する場を設定します。
- ③ 将来、国内・国際社会で活躍するために必要なコミュニケーション能力や英語力の向上を図り、多様な価値観を持つ仲間との協働的学習を行います。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言語が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

- ① さまざまな時代、ジャンルの作品を読むことで、それぞれの社会や文化についての関心や理解を深めさせる。
- ② 筆者のものの見方、感じ方、考え方を的確に理解させる。
- ③ 自分の意見を適切に表現する能力を育成する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	・ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・ 言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉の持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次とおりです。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業への取り組み状況 ・ 提出物の状況 ・ 授業中の発言 ・ 定期考査 などから評価します。	以上の観点を踏まえ ・ 授業への取り組み状況 ・ 授業中の発言 ・ 音読・朗読、作文・論述 ・ 定期考査 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業への取り組み状況 ・ 提出物の状況 ・ 授業中の発言 などから評価します。

6 学習計画

月	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	4 B (2)	「漢字と仮名の使い分け」	・筆者の主張を踏まえて、日本語の特質を理解する。	abc	・定期考査 ・提出物 ・発言 ・取り組み方
5	2 A	「日本語の豊かさ、再発見」	・日本語への新たな気づきや日本語の面白さを文章にまとめ、それを他者と共有する。	abc	
	10 B (1)	「いろは歌」 「古文冒頭選」	・古文を読む際に必要な基礎知識を身に付ける。	abc	
6	1 B (2)	1 学期中間考査			・定期考査 ・提出物 ・発言 ・取り組み方
	7 B (2)	「水かまきり」	・登場人物の立場と心情を読み取る。	abc	
	8 B (1)	「訓読のきまり」 「守株」	・漢文を読む際に必要な基礎知識を身に付ける。	abc	
7	8 B (1)	「児のそら寝」	・古文に慣れ、話の面白さを理解する。	abc	・定期考査 ・提出物 ・発言 ・取り組み方
8	1 B (2)	1 学期期末考査			
	3 B (2)	「ことばは光」	・筆者の考えを踏まえて、言葉について改めて考える。	abc	
9	3 A	「現代小説に出会おう」	・夏期休業中に読んだ本の面白さを文章にまとめ、他者と共有する。	abc	
10	8 B (2)	「羅生門」	・主人公の心情の変化を的確に読み取る。	abc	
	7 B (1)	「高名の木登り」	・現代にも通じる筆者のものの見方を理解する。	abc	
11	7 B (1)	「蛇足」	・故事成語の成り立ちとその意味を理解する。	abc	
12	1 B (2)	2 学期中間考査			

計 70 時間 (50 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 「書くこと」 5 時間	B 「読むこと」 (1) 古典 40 時間 (2) 近代以降の文章 25 時間
-----------------	------------------	--

7 課題・提出物等

- ・漢字の副教材を課題として課し、定期的に提出してもらいます。
- ・ノートや授業で活用したプリントを適宜提出してもらいます。
- ・長期休業中の課題については、別途指示します。

8 担当者からの一言

「言語文化」では、古文や漢文から近代以降の文章まで幅広く学習します。少しずつ学習内容が難しくなっていくので、それぞれの单元ごとでしっかりと理解を深め、積み残しがないように心がけてください。また、筆者の考えや登場人物の心情などを捉え、日本文化の素晴らしさを味わうことができるよう、積極的に授業に参加してください。

「継続は力なり」です。語彙を豊かにすることは、文章を理解することや、自分の考えや意見を表現することの基本です。漢字練習帳などの問題集にこつこつと取り組み、その都度覚えて、自分のものにするように心がけましょう。